

第19回全日本民医連 歯科学術運動交流集会

りんく

実行委員会ニュース No.13-①

発行：歯科学運交実行委員会

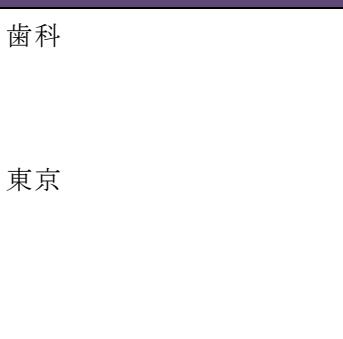


吉田実行委員長

「雨ニモ
マケズ」



東京民医連
石川会長

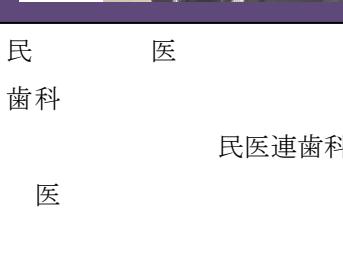


歯科

東京



江原歯科部長



民 医

歯科

民医連歯科

医

記念講演・座談会



医 医



講演後は、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士との座談会を行い、質問も交えながら、ざっくばらんなお話を頂きました。

ご自身が開発された、内視鏡を使った画期的な早期胃がん治療法「ERHSE」の開発に至るお話を伺いました。

ご自身の休日を問わず研究に時間を費やす超人的な活動もさることながら、その開発へのベースになったのは、職種を超えた連携と先生は言います。

胃切除による諸症状の「発見」は、患者さんの徹底的なフォローアップとアンケートなどによる問題の収集・分析の賜物です。この患者さんの抱えている困難という事実から出発して、ERHSEが生み出されたのです。

最後に「あまりトピックを追わず、患者の苦しんでいる現実から学び、それに基づいて医療構想をたて、諸々の職種と協力・協同して医療構想をねりあげ実践する。上を求めるのではなく、急がず、楽しく、一心に。多くの有能な人材が輩出、システムは進化し、最終的に、その成果が患者に還元されるのは、医療に携わるものとしてはこの上ない喜びである」と結んでいます。

私たちが今回テーマとしている「誰のための医療か～患者さんに寄り添う事で創られる民医連歯科の集団の技術～」を体現した講演でした。



ポスターセッション

企画を考える段階で、一日目が座りっぱなしになってしまふ事、もっと積極的に参加してもらいたいと、記念講演の後にポスターセッションを取り入れる事にしました。

医科の学運交ではポスターセッションが主流になってきています。発表者と参加者の距離が短く、質問しやすいなどの利点があります。また、発表者のプレゼン能力も要求されます。

皆さん、思い思いのポスターを作成して来て頂きました。予想以上に力作ぞろいでした。



※会場・時間の制約があり、設営のために外に出ていただいた事、発表後にすぐにポスターを撤去しなければならなかった事、発表者の声が聞きにくかった事等々、申し訳ありませんでした！



28 県連
321 人参加
発表演題
137 演題

(ポスターセッション含)

アフターレポート

第19回全日本民医連 歯科学術運動交流集会

れいんぐ

実行委員会ニュース No.13-②

発行：歯科学術運動交流集会実行委員会



夕食交流会

各班のポスターセッションで、投票を行い3つの演題が「優秀賞」として表彰されました。

1月に小崎副部長が参加されたキューバ医療視察の報告、奨学生からの一言、院所ビンゴゲームで景品をかけて盛り上がり、最後に飛び入り？の鍵盤ハーモニカ2台とギターのセッションによる“情熱大陸”の演奏で大きく盛り上がり、興奮覚めやらぬうちに終了しました。



参加された皆さまありがとうございました！！
至らぬ点は、多々あったと思いますが、皆さまのご協力で無事に終了致しました。

今回、新しい事に色々取り組みましたが、次の歯科学術運動交流にそのエッセンスが伝わって行くようにと、実行委員会一同願っております。

第19回全日本民医連
歯科学術・運動交流集会実行委員会

テーマ別セッション

初の取り組みとして、テーマに即した発表と討論を取り入れた分科会を「テーマ別セッション」と銘打ち行いました。

「高齢者歯科医療」「貧困格差・無低診・歯科酷書」「誰のための技術か」と3つのテーマで、それぞれ活発なやりとりが交わされました。

興味ある演題を選んで聞くだけでなく、討論を通してテーマを深めたいという思いがあり、通じでの参加をお願いしました。その為参加者が少ないのでないか？と不安もありましたが、思った以上に大勢の参加がありました。

討論の時間としては不十分ではありましたが、新しい試みとして大成功でした。

今回、医科からの参加で、北多摩クリニックの保坂先生に「高齢者歯科医療」について演題の発表いただきました。今後の在宅医療で医科と歯科が連携する事によって、在宅医療のスタンダードを民医連で創れる予感がしました。



テーマ別セッションの一コマ

発表後、発表者に前に出てきてもらって会場全体で討論を行い、テーマを深めました。発表者の皆さんご苦労様でした。

分科会

第一分科会「症例・事例」

第二分科会「技術」「地域保健」

第三分科会「経営」「建設・新設」「平和・社保」

第四分科会「院内システム」「養成」

第五分科会「日常活動のまとめ」「研究の報告」

参加者の皆さんには抄録を片手に、事前にチェックしていた演題を思い思い聞いていました。

質問も活発に行われ、参加者の関心の高さがうかがえました。



アフターレポート